

神戸大学ニュースネット
NEWS NET
 ©神戸大学ニュースネット委員会 http://home.kobe-u.com/top/newsnet/index.html
 関西学生報道連盟共同編集室 〒532-0011大阪市淀川区西中島3-21-9-502
 電話06-6307-1315 FAX06-6307-1316 メールnewsnet@kobe-u.com

しらすな会
 現地サポートも万全!
 本紙のみの特典あり!
**南紀サークル
 合宿情報**
 〒649-2211
 和歌山県西牟婁郡白浜町2525-4
 電話0120-53-1662
 http://www.shirasunakai.jp/

7月号

今月の主な内容

6面：海事科学部特集
 2・3・4面：総合文化
 9・10・11面：総合スポーツ

はしかで全学休校

学内での拡大防止策 課外活動に打撃

神戸大は麻疹(はしか)感染拡大防止のため、6月1日から12日まで全学を休校とした。神戸大が休校措置を取った理由とその影響を探った。

神戸大では、5月18日に学生1人が麻疹と診断された。25日には別の学生が感染の「疑い」と診断された。30日になって「疑い」と診断されていた学生の感染が確認され、新たに学生1人が麻疹と診断された。この学生は18日に感染が確認された学生と学部が同じで、共通の講義を受けていた。これをきっかけに、神戸大は全学休校を決めた。

全ての学生に自宅待機を呼びかけ、休校期間中のキャンパス内への入構と、対外試合を含めた全ての部活動を中止した。また、休校期間中の授業の補講は土曜日や夏休みに行われるため、土曜の練習に人数が集まらないなど、麻疹休校の影響は夏休みまで続くと見られる。

今回の麻疹休校について、慶應大生物災害危機管理研究室の斎藤智也さんは、休校措置は少なからず学内での拡大を防ぐ・軽減することには効果的だとしている。しかし完全な自宅待機にさせることは難しく、「休校期間中に外出し感染したり感染源になる可能性は十分ある」と話した。

【大野将寛】

麻疹(はしか)による全学休校のなか、神戸大は更なる厄災にみまわれた。神戸大は、海事科学部事務棟1階の事務室が荒らされ、ノートパソコン4台などが盗難にあったことを6月7日に発表した。無くなったパソコンには学生約1000人の氏名などの個人情報も記録されていた。ノートパソコン4台のほかには、デスクトップパソコンに装着していたメモリー2枚が盗まれた。4台のパソコンには「学生約1000人の氏名、入学年月日、住所、電話番号、保証人氏名、同住所」「平成7年度以降の卒業生の氏名」などの個人情報が流れていると見られる。

盗難が発覚したのは6月7日午前8時15分ごろ。出勤してきた職員が異常に気づき、午前8時35分ごろに兵庫東警察署に通報した。神戸大によると、事件が起こった前日の6日午後6時30分ごろに最後まで残っていた職員が鍵をかけて事務室を出たという。神戸大は、個人情報流出

海事でパソコン盗難 はしか休校中の犯行

名、入学卒業年月日、「非常勤講師の氏名、住所、勤務先」などのデータが記録されていた。神戸大によると、無くなったパソコンにログインするにはパスワードが必要。パソコンには盗難防止用チェーンなども付けていなかった。

盗難が発覚したのは6月7日午前8時15分ごろ。出勤してきた職員が異常に気づき、午前8時35分ごろに兵庫東警察署に通報した。神戸大によると、事件が起こった前日の6日午後6時30分ごろに最後まで残っていた職員が鍵をかけて事務室を出たという。神戸大は、個人情報流出

8月から耐震補強工事 期間中立ち入り禁止に

神戸大は8月20日から来年3月25日まで、国際文化センターの耐震補強工事を行うと6月28日、課外活動団体へ説明会を発表した。工事期間中は建物周辺が一部立ち入り禁止になるほか、騒音が出るため授業

machi Tshirts project
 「Tシャツで風景をつくりたい」。神戸大生が、使い古しのTシャツを使ったイベント「Tシャツ遊園地」を9月8、9日に都賀川公園(神戸市灘区)で計画している。

彼らは神戸大学研究科の院生などからなる「machi T-shirts project」実行委員会のメンバー。委員長の狩野貴久さん(工学研究科1年)は建築や、町づくりを研究している学生が、実地に社会と接点を持つ機会が、学生と地域がともに参加できるものがないか。そう考え、誰もが持っている使っていないTシャツを募集し、5000枚を自給し、古いのTシャツを使ってイベントを開こうと考えた。「子供の絵を描

【大野将寛】

キャリアアセンダー発足
 人材の育成を目指す

学務部就職支援室が改組され6月1日、神戸大キャリアアセンダーとなった。元々は就職支援室が学生の就職支援をしていた。しかし、就職市場の変化と兵に、求められる学生像も変化。それに伴い従来の情報やノウハウの提供から、学生のキャリア形成を主とした教育をめざし、キャリアセンターが設立された。

「神戸大の最大の特色は、ネットワーク型の就職支援が可能なこと。センター長の内田正博(うちだまさと)は、国際文化学部教授。



センター長に就任した内田正博氏(6月19日・国文A棟1階キャリアセンター前で撮影。伊崎春樹)

設置する。国際文化学部では、8月20日から12月5日の1期工事(B棟・E棟・学生会館)と12月1日から来年3月25日までの2期工事(A棟・L棟)に分けて行う。耐震補強工事とともに、食堂の増築も行う。

今回の工事は、政府の平成18年度補正予算を受けて行うもので、工事予定地は全学で9万平米。現在の耐震基準を満たしていない建物に対して、補強壁などを

一週間、購読無料。
 この機会に新聞を
 読んでみませんか?
 いまなら一週間お試し
 キャンペーン実施中!
 http://www.asa-takaha.com
 朝日新聞ご購入のお申込みは
ASA 高羽
 ☎0120-084013
 神戸市灘区土山町1-13
 ※但し灘区内在住の方に限ります。

復興祭「灘チャレンジ」
 震災の記憶をつなげ
 当時の写真や体験談展示

阪神・淡路大震災からの復興祭として始まった「灘チャレンジ」が6月3日、都賀川公園(神戸市灘区)で今年も開催された。「神戸大総合ボランティアセンター」や「神戸大学生震災救援隊」などからなる

【大野将寛】

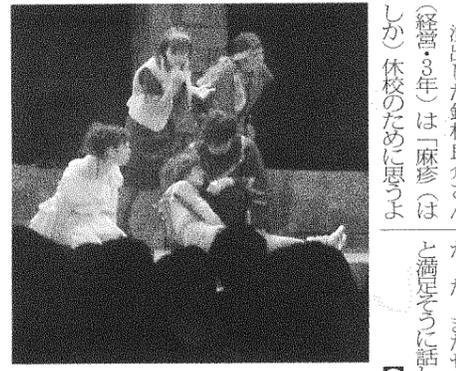
伏流水
 2007年6月20日、教育再生関連3法案が国会で成立した。注目すべきは、義務教育の目標に「我が国と郷土を愛する態度を養う」との「愛国心」表記を盛り込んだことだ。はたして子ども達に「国を愛する態度」なるものを教える必要はあるのだろうか?中学生の頃、沖縄戦について調べたことがある。強く印象に残っているのは、その際の島民の「集団自決」だ。当時、これは戦時教育が抱いた悲劇だと思った。同時に教育の潜在的な恐ろしさを知った。僕はその頃から教育が国の将来を決めるほどの大きな影響力を持つことになった。だから今回の法案の成立に不安を抱く。「愛国心」を拡大解釈して、子ども達に偏った教育をする教師が現れたりするのはないか?そもそも日本は我々に愛されるような、誠実な行動をしているのだろうか。むしろ「政治力」の問題や、天下りの横行、年金問題など、不誠実な行動ばかり目立っているように見える。自分自身を愛してはいるか?と思うならば、まず相手に対して誠実な行動をするのが筋ではないだろうか。わざわざ教えるのではなく、「おのずから」愛されるようになるのが日本本来の伝えたいべきではないだろうか。【藤坂太士】

自劇公演
 50年間変わらぬ愛
 「CRYSTAL EVE」

演劇部自由劇場による第151回公演「CRYSTAL EVE」の公演が6月28日から6月30日、六甲台講堂で行われ、7月1日で千秋楽を迎えた。

最終日となった日曜日は、あいにくの悪天候だったが、詰めかけた多くの観客に呼応して、部員らはステージいっぱいに渾身の演技を披露した。

この「CRYSTAL EVE」のテーマは「人を想うこと」。50年の時を経ても最愛の夫の無実を信じ続ける妻の途な愛、仲間同士の強い信頼関係など、



笑いあり、涙ありの公演に多くの人が詰めかけた(7月1日・六甲台講堂で撮影。上村絵理)

観客に改めて「人を想う」ことの大切さを実感させる要素がたくさん詰まっています。

演出した鈴木良介さん(経営3年)は「麻疹(はしか)休校のために思うように全体練習が進まず苦勞したが、今日までの過程の全てが楽しかった」と、最終公演を終えて晴れやかな表情を見せた。

部員の招待でこの作品を見に来たというアメリカ人留学生は、「初めて演劇を見たが、とてもおもしろかった。またぜひ見たい」と満足そうに話した。

【梅本良恵】

Kobe University, Faculty of Maritime Sciences

~ 海事科学部特集 ~

船乗り魂を見よ!

学部が神戸市各地に分散しているため「なご足大」の名を持つ神戸大。その中で最も新しい「足」が海事科学部だ。海事科学部は平成15年10月、神戸大と神戸商船大が統合してできた。海に面するキャンパスを有するこの学部には独特の行事や設備などが存在する。今年10月に設置4周年を迎える海事科学部に会った。

テーマは「蒼海」

海事の学園祭 第4回深江祭

学生を始め家族連れや地元の人も多く訪れる深江祭。着ぐるみが出迎えてくれたり、実習船で神戸港をクルージングできたりと、子どもから大人まで楽しめる。今まで気が付かなかった海の魅力に驚かされる祭りだ。

海事科学部の学園祭「深江祭」が5月26、27日、神戸大深江キャンパスで行われた。各部活や芸人によるステージのほか、海事科学部の学園祭でしか見られない実習船の試乗会などが行われ、会場は家族連れなど多くの客でにぎわった。

第4回の今年のテーマは「蒼海(そうかい)」。深江祭実行委員長の八木優さん(海事・3年)は「海について学ぶ海事科学部を一般の人にも広く知ってもらいたい」と話した。

「深江祭は海事科学部の特徴を全面に押し出したイベントに力を入れている。練習船の試乗会や研究室の紹介などを通して、海事に関する興味を持ってもらうことが目的。シミュレータを使って船の操縦を疑似体験ができる研究室も公開された。来場者が海事科学部生から説明を受けながらシミュレータを体験する姿が見られた。



キャンパス横の係留施設で停泊する深江丸(6月28日・深江キャンパスで 撮影=梅本良恵)

実習船「深江丸」

その能力にせまる

神戸大大学院海事科学研究科が所有する実習船「深江丸」。学生や教員の海洋での調査、研究などに使われるこの船はどのような能力を有しているのだろうか。深江丸に会った。

全長約50メートル、総トン数49トンと決して大きな船ではないが、現在就航している深江丸は3代目。昭和28年10月に竣工した。深江丸は毎年、実習などで多くの学生を乗せ、瀬戸内海を主に航行している。最高で沖縄まで航海したことがあるという。

深江丸船長の矢野吉治准教授(海の・よし)は「深江丸について『船が出来て20年。船体は古いけど、船内の設備は国内でもトップクラス』と話す。

深江丸の内部には最新のエレクトロニクス技術を盛り込んだ数多くの装置やシステムが搭載されている。例えば、船内中央部に設け

られたデータ処理室。ここにある光ファイバーを用いたデータ処理システムにより船内から衛星通信が可能であり、船上での実験、研究、調査等を効率的に処理できるようになっている。

また、艦橋は一般的な船舶よりも大きなスペースが用意されており、学生への指導が行われやすくなっている。これらにより、深江丸は学生の練習、実験、研究はもとより教官の実験、研究を通して様々な問題の解決に期待されている。深江丸を利用した例として、災害発生時の人工透析患者搬送を目的とした「海上支援ネットワーク」がある。(同面に関連記事)

海事科学部生や研究者だけでなく、深江丸には海事科学部の学園祭「深江祭」や集中講義などで一般人や海事科学部以外の神戸大生

ることができた。深江丸に乗船した男性は「船に乗るのは初めてだが、風が気持ちよく乗り心地もいい。船や神戸港の丁寧な解説があり、とても勉強になった」と話した。乗組員として乗船していた女子学生(海事・4年)は「大勢の人に来て頂けてとても嬉しい」と深江祭に対し、感慨深い面持ちで話した。

学生会企画を増やした。例えば、映画のDVDを流すなどの試みが行われた。着ぐるみの使用も今年度から祭りに来しに供らした。【上村絵里】

患者移送に新風 海上支援 深江丸など利用

海事科学部の井上欣三教授を代表とした海事科学部の研究者グループ「海上支援ネットワーク」の活動が全国へ波及している。同ネットワークは、大阪湾を囲む地域で大地震などの災害が起きた際に海上交通がまひした際、深江丸などの船舶を利用して慢性腎不全患者を被災地外の病院に緊急搬送するシステムを構築している。

平成7年に起こった阪神・淡路大震災では地震が発生してから3日間、ほとんどの船舶が利用できない状態にあったにも関わらず、深江丸など同様の活動が展開され、中京圏などでも行われる予定。井上教授は「海事は今まで軽視されてきたが、(同ネットワークの)社会的に認知されてきた」と話し、「慢性腎不全患者以外の緊急搬送もできるよりに考えていきたい」と話した。【西田健信】

深江キャンパスの近くにある白鷗寮の食堂前にはひとつの記念碑が残されている。「平成7年1月17日午前5時46分発生した阪神・淡路大震災における白鷗寮自治会の救助活動を記念してここに建立する」。震災が起きた平成7年の7月24日に、旧神戸商船大の当時の学長である井上寛次郎氏によって建立されたものだ。

1995 2007 深江丸機関長 震災を振り返る

神戸大の海事科学部として新たなスタートをきった。現在、白鷗寮には海事科学部の学生だけでなく、他学部の学生も入寮している。震災発生から12年が経つ今、当時の寮生らの活躍を記す記念碑の存在を知らない寮生も多いという。震災の記憶が薄れつつある中、「悲しい限りですが、おぼろげに覚えていて、我々から強制的にすり込ませていかなくてはならない」と話す。

有田さんは卒業後、独立行政法人航海訓練所の職員を経て、昨年4月に今は無き母校のキャンパスへ帰ってきた。「戻って来てほしい希望はあった。海事科学部の期限付き講師として実習船「深江丸」の機関長に就任。現在、学生らの指導にあたり

【濱田直毅】

有田俊晃さん

深江も、六甲台も、大倉山も、名谷も... 全部カバーしています。 まだまだ部員募集中 連絡先: 上村絵里(文・2年) (info@unn-news.com)

神戸大学ニュース外 NEWS NET

も乗船でき、平成18年度までの一方6-9人が乗船している。 海事科学部の一設備であり、神戸大全体に課せられる義務は年々増えている。 【西田健信】

同ネットワークがこれまでの活動で得たノウハウを東京海洋大などに提供して昨年から関東圏でも同様の活動が展開され、中京圏などでも行われる予定。井上教授は「海事は今まで軽視されてきたが、(同ネットワークの)社会的に認知されてきた」と話し、「慢性腎不全患者以外の緊急搬送もできるよりに考えていきたい」と話した。 【西田健信】

「深江丸は彼女のようなもの」。そう話すのは深江丸の船長、矢野吉治准教授。矢野船長は神戸商船大(現神戸大海事科学部)出身で旧運輸省時代に練習船「海王丸」に乗り、太平洋、インド洋など、世界の各々たる海を航海してきた海の専門家だ。矢野船長に話を聞いた。

熱血船長に聞く 学生への思い

「航海で注意しているのは船は港から出ると、ひとつの『国』となり、船長は『国王』となる。船員の命を守る責任が大きい。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「学生に教えることは何ですか。 (ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。



ステージで合唱するアカペラグループ(5月26日・深江キャンパスで 提供=海事科学部)

「深江丸は彼女のようなもの」。そう話すのは深江丸の船長、矢野吉治准教授。矢野船長は神戸商船大(現神戸大海事科学部)出身で旧運輸省時代に練習船「海王丸」に乗り、太平洋、インド洋など、世界の各々たる海を航海してきた海の専門家だ。矢野船長に話を聞いた。

熱血船長に聞く 学生への思い

「航海で注意しているのは船は港から出ると、ひとつの『国』となり、船長は『国王』となる。船員の命を守る責任が大きい。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「学生に教えることは何ですか。 (ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

熱血船長に聞く 学生への思い

「航海で注意しているのは船は港から出ると、ひとつの『国』となり、船長は『国王』となる。船員の命を守る責任が大きい。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「学生に教えることは何ですか。 (ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

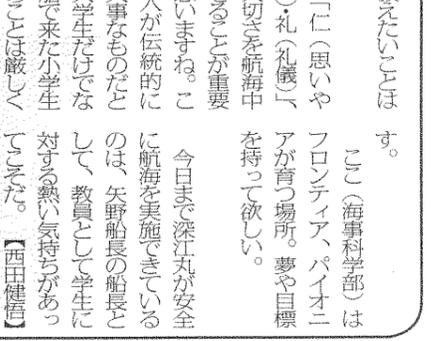
「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。

「(ここ)海事科学部は学生に『仁(思いやり)・儀(儀式)・礼(礼儀)』の3つを教えることが重要で、仲間意識の大切さを航海中に芽生えさせることが重要だ教育を思いまわす。これは日本人が伝統的に持っている大事なものだ。これを学生に任せるが、危険を察知した場合は学生を怒鳴りつけ、時には手が出ることもあります。これは大層な責任を背負っている。しかし、常に怒っているわけではなく、学生とのコミュニケーションも大切にしています。



矢野吉治船長